

数 学 ㉒ (別冊) 〔工業数理 簿記〕 (100点) 〔情報関係基礎〕 (60分)

I 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
工 業 数 理	4~13	左の3科目のうちから1科目を選択し、解答 しなさい。
簿 記	14~30	
情報関係基礎	31~57	

- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に受験番号欄、氏名欄、試験場コード欄及び解答科目欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
- 5 受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。また、解答科目がマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
- 6 選択問題については、解答する問題を決めたあと、その問題番号の解答欄に解答しなさい。ただし、指定された問題数をこえて解答してはいけません。
- 7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 8 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

II 解 答 上 の 注 意

- 1 解答は、解答用紙の問題番号に対応した解答欄にマークしなさい。例えば、第2問の ア と表示のある問いに対して ㉓ と解答する場合は、次の例のように問題番号 ㉒ の解答記号アの解答欄の ㉓ にマークしなさい。

例 1

2	解 答 欄														
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d
ア	⊖	⊙	①	②	㉓	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	㉔	㉕	㉖	㉗

解答上の注意は、問題冊子の裏表紙にも続くので、問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、問題冊子を開いてはいけません。

2 問題の文中の , などの に数字(0~9), 符号(-), 又は文字 (a, b, c, d) を入れるよう指示された場合, 次の方法で解答用紙の指定欄に解答しなさい。

(1) イ, ウ, エ, …の一つ一つは, 数字(0~9), 符号(-), 又は文字(a, b, c, d)のいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のイ, ウ, エ, …で示された解答欄にマークして答えなさい。

例2 に38と答えたいとき

イ	<input type="radio"/>	0	1	2	<input checked="" type="radio"/>	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d
ウ	<input type="radio"/>	0	1	2	3	4	5	6	7	<input checked="" type="radio"/>	9	a	b	c	d

以下の解答上の注意は, 工業数理を受験する者への注意です。(情報関係基礎, 簿記の受験者には必要ありません。)

(2) 分数形で解答する場合は, 既約分数(それ以上約分できない分数)で答えなさい。符号は分子につけ, 分母につけてはいけません。

例3

エオ
カ

 に $-\frac{4}{5}$ と答えたいときは, $\frac{-4}{5}$ として

エ	<input checked="" type="radio"/>	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	a	b	c	d
オ	<input type="radio"/>	0	1	2	3	<input checked="" type="radio"/>	5	6	7	8	9	a	b	c	d
カ	<input type="radio"/>	0	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/>	6	7	8	9	a	b	c	d

(3) 数値で解答する場合は, 求められている数値の最後のけたの次のけたを四捨五入して解答しなさい。なお, 日本工業規格(JIS)による数値の丸め方に従って解答してもよい。

ただし, 解答した数値を以後の計算に再度利用する場合には, 四捨五入する前又は日本工業規格(JIS)により丸める前の数値を使いなさい。

簿記

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ～ 〕(配点 40)

A 次の(1)～(4)は、栃木株式会社の平成×5年度(平成×5年4月1日から平成×6年3月31日まで)における諸取引である。なお、商品に関する取引は3分法による。空欄 ～ および ～ にあてはまるものを、それぞれの解答群のうちから一つずつ選べ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

- (1) 4月1日：備品(取得原価¥15,000)を山形株式会社に¥4,000で売却し、代金は月末に受け取ることにした。この備品は平成×2年4月1日に取得したもので、耐用年数は5年、残存価額は取得原価の10%であり、定額法によって適正に償却されてきた。なお、この備品について当期の減価償却はおこなわないものとする。

この取引を仕訳で示すと、次のとおりである。この仕訳では、費用の発生額は¥ である。

4月1日：(借)	()	8,100	(貸)	備品	15,000
	<input type="text" value="イ"/>	4,000			
	固定資産売却損	2,900			

- (2) 5月1日：岐阜建設株式会社に工場建物の建設を依頼していたが、このたび完成したので、工事の請負価額¥1,000,000のうち、すでに支払済みの¥850,000を差し引き、残額は月末に支払うこととして引渡しを受けた。

この取引を仕訳で示すと、次のとおりである。この仕訳では、資産の増加額は¥1,000,000であり、資産の減少額は¥ である。

5月1日：(借)	建物	1,000,000	(貸)	建設仮勘定	850,000
				<input type="text" value="エ"/>	150,000

ア～エの解答群

① 売掛金	④ 買掛金	⑦ 未収金	⑩ 未払金
② 備品減価償却累計額	⑤ 仮払金	③ 仮受金	
③ 2,900	⑥ 6,900	⑧ 11,000	④ 15,000
④ 150,000	⑦ 850,000	⑨ 1,000,000	

(3) 5月15日：群馬株式会社から商品¥2,000の注文を受け、内金として¥500を現金で受け取った。

6月15日：上記商品を引き渡し、代金は内金を差し引き、現金で受け取った。

これらの取引を仕訳で示すと、次のとおりである。

5月15日：(借) 現金	500	(貸) オ	500
6月15日：(借) オ	500	(貸) カ	2,000
現金	1,500		

(4) 7月5日：前橋株式会社に注文してあった商品¥8,000の貨物引換証を受け取り、代金は掛けとした。

8月10日：上記貨物引換証を千葉株式会社に¥8,500で売り渡し、代金は掛けとした。

これらの取引を仕訳で示すと、次のとおりである。

7月5日：(借) キ	8,000	(貸) 買掛金	8,000
8月10日：(借) 売掛金	8,500	(貸) ()	8,500
ク	8,000	キ	8,000

オ～クの解答群

① 売上	④ 仕入	⑦ 売掛金	⑩ 買掛金
② 未着商品	⑤ 預り金	④ 前受金	⑦ 仮受金
③ 試用品	⑥ 仮払金		

簿記

B 資料1 は、商品売買業を営む神戸商店の諸取引とその仕訳を示したものである。また、資料2 は、それらの取引を記入した総勘定元帳と補助簿を示したものである。これらの資料にもとづいて、17ページから18ページの間（問1～4）に答えよ。なお、（ ）は各自で考えること。

資料1 諸取引とその仕訳

6月4日 新聞広告料¥50,000を、小切手#04を振り出して支払った。

(借) ケ 50,000 (貸) () 50,000

5日 郵便切手とはがき¥30,000を買い入れ、代金は現金で支払った。

(借) ケ 30,000 (貸) () 30,000

6日 事務用封筒¥20,000を買い入れ、代金は現金で支払った。

(借) ケ 20,000 (貸) () 20,000

7日 建物の火災保険料¥40,000を、小切手#13を振り出して支払った。

(借) ケ 40,000 (貸) () 40,000

資料2 総勘定元帳と補助簿

(総勘定元帳)

		ケ		
6 / 4	()	50,000		
5	コ	30,000		
6	()	20,000		
7	サ	40,000		

(補助簿)

シ

ス

1

平成 ×年	摘要	借方	貸方	借 または 貸	残高
6 4	新聞広告料	50,000		借	50,000

セ

2

6 5	郵便切手・はがき代	30,000		借	30,000
-------	-----------	--------	--	---	--------

ソ

3

6 6	事務用封筒代	20,000		借	20,000
-------	--------	--------	--	---	--------

タ

4

6 7	建物火災保険料	40,000		借	40,000
-------	---------	--------	--	---	--------

問 1 空欄 **ケ** ~ **サ** および **ス** ~ **タ** にあてはまるものを、
次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ケ ~ **サ** および **ス** ~ **タ** の解答群

- | | | | |
|-------|--------|---------|-------|
| ① 現金 | ② 当座預金 | ③ 営業費 | ④ 給料 |
| ⑤ 広告料 | ⑥ 支払家賃 | ⑦ 支払手数料 | ⑧ 通信費 |
| ⑨ 旅費 | ⑩ 消耗品費 | ㉑ 修繕費 | ㉒ 保険料 |

簿記

問 2 空欄 **シ** にあてはまる補助簿の名称を、次の解答群のうちから一つ選べ。

シ の解答群

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 買掛金元帳 | ② 営業費内訳帳 |
| ③ 小口現金出納帳 | ④ 当座預金出納帳 |

問 3 **ケ** 勘定に含まれないものは、**チ** である。空欄 **チ** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

チ の解答群

- | | | | |
|-------|-------|---------|--------|
| ① 発送費 | ② 交通費 | ③ 水道光熱費 | ④ 支払利息 |
|-------|-------|---------|--------|

問 4 **ケ** 勘定は、**シ** の費目別勘定に対する **ツ** となっている。空欄 **ツ** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ツ の解答群

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| ① 集合勘定 | ② 対照勘定 | ③ 統制勘定 | ④ 評価勘定 |
|--------|--------|--------|--------|

(下書き用紙)

簿記の試験問題は次に続く。

簿記

第2問 愛知商店(決算は年1回、決算日は12月31日)には、本店以外に、割賦販売をおこなう静岡支店と、委託販売をおこなう三重支店がある。両支店は、当期に設けられたものである。

資料1 ～ 資料4 にもとづいて、22ページから23ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ～ **ヒ** 〕(配点 30)

資料1 愛知商店に関する文章

愛知商店の各支店は、発生した取引のすべてを独自の仕訳帳および **ア** に記帳し、期末には独自の決算をおこない、財務諸表を作成している。なお、この方法を **イ** という。

この方法のもとでは、本店と各支店との間で取引がおこなわれると、本支店間に貸借関係が生じる。これを処理するために、本店の **ア** には各支店勘定を設け、各支店の **ア** には **ウ** 勘定を設ける。

また、各支店間の取引について、本店は各支店と取引したように記帳し、各支店は本店を相手として取引したように記帳している。なお、この方法を **エ** という。

資料2 本店・各支店の残高試算表(未記帳事項・未達取引整理前)の一部と付記事項

残高試算表(未記帳事項・未達取引整理前)

平成×年12月31日

勘定科目	本店	静岡支店	三重支店	勘定科目	本店	静岡支店	三重支店
割賦売掛金		400		本店		410	サシス
積送品			クケコ	売上	2,000	()	
静岡支店	オカキ			静岡支店へ売上	()		
三重支店	700			三重支店へ売上	150		
仕入	3,000		150	：			
本店から仕入		440	150	：			

付記事項

(1) 割賦販売について

- ① 割賦販売については、一般の商品販売と同じように、売上勘定の貸方にその販売額を記帳する方法による。
- ② 静岡支店は、平成×年11月1日に、商品を12か月の月賦(月末均等払い)で売り渡し、期日が到来した2回分の割賦金を現金で受け取った。これらの取引は正しく記帳されている。なお、同支店では、当期において、これ以外の販売はおこなわれなかった。

(2) 委託販売について

- ① 積送品の発送諸掛は、積送品勘定に含める。また、委託販売については、売上勘定の貸方に手取金額で記帳する方法による。
- ② 三重支店は、平成×年12月1日に、委託販売のために原価 ¥520 (@ ¥52, 10個)の商品を発送し、発送諸掛 ¥30を現金で支払った。これは正しく記帳されている。また、決算日に、次の売上計算書とともに、手取金を送金小切手で受け取ったが、これは未記帳である。なお、同支店では、当期において、これ以外に商品の発送はおこなわれなかった。

<u>売上計算書</u>		
売 上 高	@ ¥80 × 10個	¥800
諸 掛		
保管料	¥20	
手数料	80	<u>100</u>
手 取 金		<u>¥700</u>

簿記

資料3 未達取引とその仕訳

(1) 本店は、静岡支店に商品 ¥220 を送ったが、静岡支店に未達である。

〔静岡支店〕 (借) 本店から仕入 220 (貸) () 220

(2) 静岡支店は、三重支店の修繕費 ¥120 を現金で立て替えて支払ったが、この通知が本店と三重支店に未達である。

〔本店〕 (借) **セ** 120 (貸) () 120

〔三重支店〕 (借) **ソ** 120 (貸) () 120

(3) 三重支店は、本店の売掛金 ¥160 を現金で受け取ったが、この通知が本店に未達である。

〔本店〕 (借) () 160 (貸) **タ** 160

資料4 各支店の損益計算書(未記帳事項・未達取引整理後)の一部

損益計算書(未記帳事項・未達取引整理後)

平成×年1月1日から平成×年12月31日まで

費用	静岡支店	三重支店	収益	静岡支店	三重支店
期首商品棚卸高	0	0	売上高	㊦㊧㊨	㊩㊪㊫
仕入		700	期末商品棚卸高	330	()
本店から仕入	㊬㊭㊮	150	:		

(注) 外部から仕入れた分は「仕入」勘定に、本店送付分(未達商品を含む)は「本店から仕入」勘定に含まれている。なお、各支店は決算にあたって、未記帳事項・未達取引整理後の財務諸表を作成している。

問1 資料1 の空欄 **ア** ~ **エ** にあてはまるものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア ~ **エ** の解答群

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| ① 総勘定元帳 | ④ 補助元帳 | ⑦ 本店から仕入 |
| ② 支店へ売上 | ⑤ 本店 | ⑧ 支店 |
| ③ 支店会計の独立 | ⑥ 本店集中計算制度 | |

問 2 資料 2 の空欄 オ ～ ス にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 資料 3 の空欄 セ ～ タ にあてはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

セ ～ タ の解答群

㊶ 本店	㊷ 支店	㊸ 本店から仕入	㊹ 支店へ売上
㊺ 現金	㊻ 売掛金	㊼ 立替金	㊽ 買掛金
㊾ 預り金	㊿ 修繕費	㊽ 静岡支店	㊾ 三重支店

問 4 資料 4 の空欄 チ ～ ノ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 5 次の空欄 ハ ・ ヒ にあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

	静岡支店	三重支店	合計
① 期末商品棚卸高のうち本店から仕入分(未達商品を含む)	¥ 330	¥ 150	¥ 480
② ①に含まれる内部利益	¥ ()	¥ ()	¥ <input type="text" value="ハ"/> <input type="text" value="ヒ"/>

(注) 本店から静岡支店に送付された商品には、原価に対して 10% の利益が加算されている。また、本店から三重支店に送付された商品には、原価に対して 50% の利益が加算されている。

簿記

第3問 沖縄物産株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、複合仕訳帳制を採用しており、現金出納帳、当座預金出納帳、仕入帳および売上帳を特殊仕訳帳としている。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末におこなっている。

資料1 は平成×5年2月末日(28日)の残高試算表、資料2 は平成×5年3月の特殊仕訳帳、資料3 は普通仕訳帳に記帳された平成×5年3月中の取引、資料4 は決算整理事項、そして資料5 は損益勘定と繰越試算表である。

資料5 の空欄ア～ホにあてはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。ただし、金額の単位はすべて百万円である。なお、()は各自で考えること。[解答記号ア～ホ](配点 30)

資料1 平成×5年2月末日(28日)の残高試算表

残高試算表

平成×5年2月28日

借方	金額	貸方	金額
現金	180	支払手形	70
当座預金	150	買掛金	100
受取手形	270	貸倒引当金	4
売掛金	310	社債	400
繰越商品	220	備品減価償却累計額	40
仮払法人税等	30	資本金	500
備品	200	資本準備金	50
社債発行差金	12	利益準備金	40
社債発行費	4	繰越利益	12
仕入	1,080	売上	1,630
給料	220	受取手数料	90
広告料	50		
支払家賃	200		
社債利息	10		
	2,936		2,936

資料2 平成×5年3月の特殊仕訳帳(現金出納帳, 当座預金出納帳, 仕入帳および売上帳)

(1) 現金出納帳

現金出納帳

平 ×5年	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	金額	平 ×5年	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	金額
3	6	受取手数料	山口物産		30	3	25	給料	3月分		40
	14	売上	長崎商事	(省)	40		26	広告料	那覇広告社	(省)	35
	31		入金合計		70		31		出金合計		75
			前月繰越	(略)	180				次期繰越	(略)	175
					250						250

(2) 当座預金出納帳

当座預金出納帳

平 ×5年	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口	平 ×5年	成 年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
3	7	売掛金	宮崎商事		15		3	9	買掛金	佐賀商事		20	
	8	受取手形	長崎商事			40		12	仕入	福岡商事			30
	23	売掛金	大分商事		30			16	買掛金	熊本商事		35	
				(省)				31	社債利息	半年分	(省)		10
					45	40						55	40
	31			(略)		45		31					55
	"		預入合計			85		"		引出合計			95
			前月繰越			150				次期繰越			140
						235							235

簿記

(3) 仕入帳

仕入帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	買掛金	諸口
3	3	買掛金		20	
	12	当座預金			30
	19	買掛金		40	
	20	買掛金		10	
	24	支払手形			25
	31		(省略)	60	55
	"	総仕入高			60
	"	仕入値引・戻し高			115
	"	純仕入高			10
					105

(注) 太字は赤字記入を意味している。

(4) 売上帳

売上帳

平成 ×5年	勘定科目	摘要	元 丁	売掛金	諸口
3	5	受取手形			50
	14	現金			40
	21	売掛金		45	
	27	売掛金		25	
	30	売掛金		5	
	31		(省略)	70	90
	"	総売上高			70
	"	売上値引・戻り高			160
	"	純売上高			5
					155

(注) 太字は赤字記入を意味している。

資料3 普通仕訳帳に記帳された平成×5年3月中の取引

3月11日 先に仕入先鹿児島商事あてに振り出した約束手形 ㊦ 30 について、支払期日の延期を申し込み、承諾を得て、利息 ㊦ 5 を加算した新手形を振り出し、旧手形と交換した。

22日 仕入先熊本商事に対する買掛金の支払いとして、得意先宮崎商事あての為替手形 ㊦ 10 を振り出し、宮崎商事の引き受けを得て、熊本商事に渡した。

資料4 決算整理事項

- (1) 期末商品について、棚卸減耗費 ㊦ 21 と商品評価損 ㊦ 9 を計上する。
- (2) 受取手形および売掛金の期末残高に対して、2%の貸し倒れを見積もる。
貸倒引当金の設定は差額補充法による。
- (3) 備品について減価償却をおこなう。備品は、平成×3年4月1日に取得したものであり、定率法によって計算する。
- (4) 家賃の前払分を次期に繰り延べる。家賃は、毎年12月1日に1年分を前もって支払っている。なお、近年の家賃は一定である。
- (5) 支払利息の前払分 ㊦ 4 を次期に繰り延べる。
- (6) 社債発行差金および社債発行費の償却をおこなう。社債は、平成×2年4月1日に発行したものであり、社債発行差金は償還期限(5年)にわたって、また、社債発行費は3年間で毎決算期に均等額を償却する。なお、社債発行差金および社債発行費の償却は、それぞれ社債発行差金償却勘定および社債発行費償却勘定で処理する。
- (7) 法人税等 ㊦ 70 を計上する。

簿記

資料5 損益勘定と繰越試算表

		損	益
仕入	1,177	売上	1,727
給料	()	受取手数料	270
広告料	()		
支払家賃	250		
貸倒償却	1		
減価償却費	()		
棚卸減耗費	21		
商品評価損	9		
社債利息	10		
支払利息	1		
社債発行差金償却	1		
社債発行費償却	()		
法人税等	70		
未処分利益	22		
	()		()

繰越試算表

平成×5年3月31日

借方	金額	貸方	金額
現金	225	支払手形	250
当座預金	120	買掛金	18
受取手形	120	貸倒引当金	()
売掛金	120	未払法人税等	22
繰越商品	180	社債	400
前払家賃	()	備品減価償却累計額	18
前払利息	()	資本金	500
備品	200	資本準備金	50
社債発行差金	()	利益準備金	40
		未処分利益	88
	1,387		1,387

(下書き用紙)

簿記

(下書き用紙)